

IR HAND BOOK

第63期 第2四半期のご報告 (2011.4.1...2011.9.30)



人を豊かに、地球を美しく

ひと目で分かる 松田産業

当社グループは、「地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献すること」を企業理念として、

- 限りある資源・貴金属をリサイクルして有効活用する「貴金属事業」
- きれいな環境を次世代に引き継ぐ「環境事業」
- 地球の豊かな恵み、食資源を安定的に供給する「食品事業」

の3事業を展開しています。

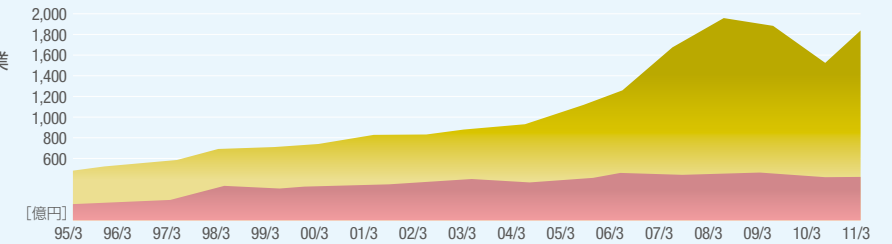
貴金属関連事業（「貴金属事業」「環境事業」）を拡大・成長の牽引部門、

食品関連事業を安定的成長部門と位置付け、

安定性と成長性を実現する企業づくりを行っています。

売上高の推移

- 貴金属関連事業
- 食品関連事業



貴金属関連事業

事業内容

貴金属事業

- 貴金属地金・貴金属化成品の製造、貴金属のリサイクル、薄膜形成装置治具の精密洗浄、半導体・電子部材の販売

環境事業

- 感光材料に含まれる銀のリサイクル、産業廃棄物の収集・運搬、廃酸・廃アルカリ等の無害化中間処理、リサイクル

事業の強み

- 創業以来70余年間蓄積された高度な技術・ノウハウで、前処理から分析、製錬まで対応。金、銀、白金族を中心に確実に回収する技術力の高さを取扱高は常に業界トップクラス
- メッキ用化成品などエレクトロニクス業界向け製品を多彩に開発・製造・販売するほか、産業廃棄物処理も行い、トータルリサイクルサービスを提供
- 全国を網羅する産業廃棄物収集・運搬許可を取得

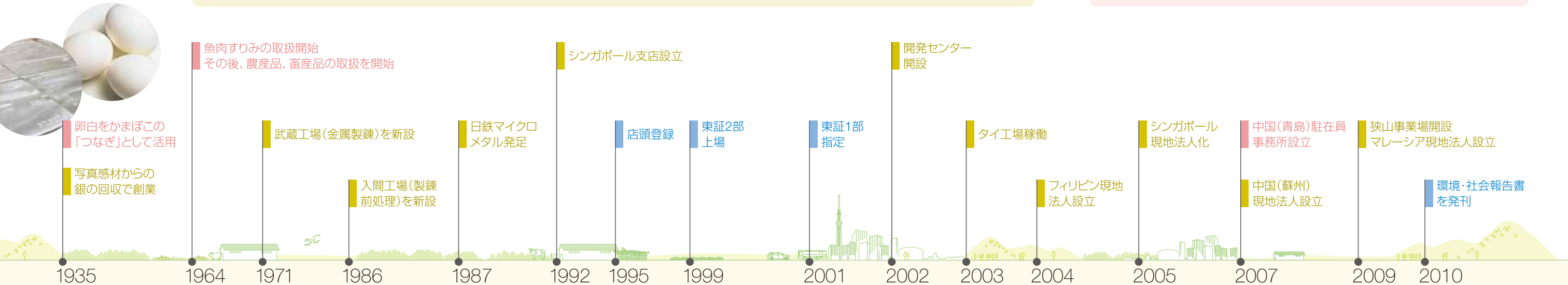
食品関連事業

事業内容

- 世界各国から、安全な食材（水産品・畜産品・農産品など）を調達し、加工食品メーカーや中食・外食産業のお客様に供給

事業の強み

- 世界各国の仕入ネットワークを通じユーザーの求める商品を調達
- ユーザーが最も使いやすい形態・ロットでフレキシブルに一次加工
- 品質保証室による産地指導、品質規格書の発行やトレーサビリティのサービスで差別化



当誌に記載された業績見通し等の将来に関する記述は、決算短信が発表された2011年11月11日現在に当社が入手していた情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

東アジアNo.1リファイナーを目指し、事業基盤を拡大してまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、当社の2012年3月期第2四半期(2011年4月1日～9月30日)のIR HAND BOOKをお届けいたします。本誌を通じて、当社に対するご理解を深めていただければ幸いです。

当第2四半期累計の業績と配当につきまして

主力顧客であるエレクトロニクス業界の生産が東日本大震災の影響により落ち込み、それに伴い当社の販売は減少しましたが、第2四半期に入って持ち直しの動きがみられました。また、貴金属の価格が高値で推移したことなどから、当社グループの当第2四半期累計の連結売上高は、975億24百万円(前年同期比7.5%増)となりました。利益につきましては、営業利益39億80百万円(同39.0%増)、経常利益39億84百万円(同39.0%増)、四半期純利益24億65百万円(同44.7%増)となりました。このような業績を受け、当第2四半期末の配当金につきましては、予定通り1株当たり12円といたしました。2012年3月期の期末配当も12円とし、年間配当金は、前期と同額の24円とする予定です。

東アジアでの事業基盤を強化

当社グループは貴金属関連事業において、部品供給基地として重要性が高まる東アジアでNo.1のリファイナーを目指し、シンガポール、タイ、フィリピン、中国(蘇州)、マレーシアに、貴金属商品販売、原材料回収の強力なネットワークを築いております。タイの現地法人においては、このたびの洪水により被害を受けましたが、早期の復旧に取り組んでまいります。一方、エレクトロニクス産業の成長が著しいマレーシアにおいて、2011年11月、製錬工場が稼働いたしました。今後も、海外拠点と国内の連携を図り、貴金属リサイクル、電子部材・貴金属化成品等の販売、精密洗浄サービスの拡大に努めてまいります。

マレーシア工場が2011年11月に稼働

製錬設備を備えた新工場が稼働しました。シンガポール、タイ、フィリピン、中国の拠点とともに、東アジアにおける貴金属回収製錬事業の拡大を図ってまいります。



中長期目標へ向けて

2012年3月期の通期の見通しは、売上高1,900億円、営業利益70億円、経常利益72億円、当期純利益44億円を計画しております。

当社グループは、中長期的な目標として「連結売上高2,000億円、経常利益100億円」の達成を目指しております。貴金属関連事業を成長の牽引部門と位置付け、「海外拠点の強化」「国内拠点の整備」「製品・技術の開発」に注力してまいります。また、食品関連事業におきましては、安心・安全な食材を世界各地より調達し、お客様のご要望に応える商品を提供してまいります。

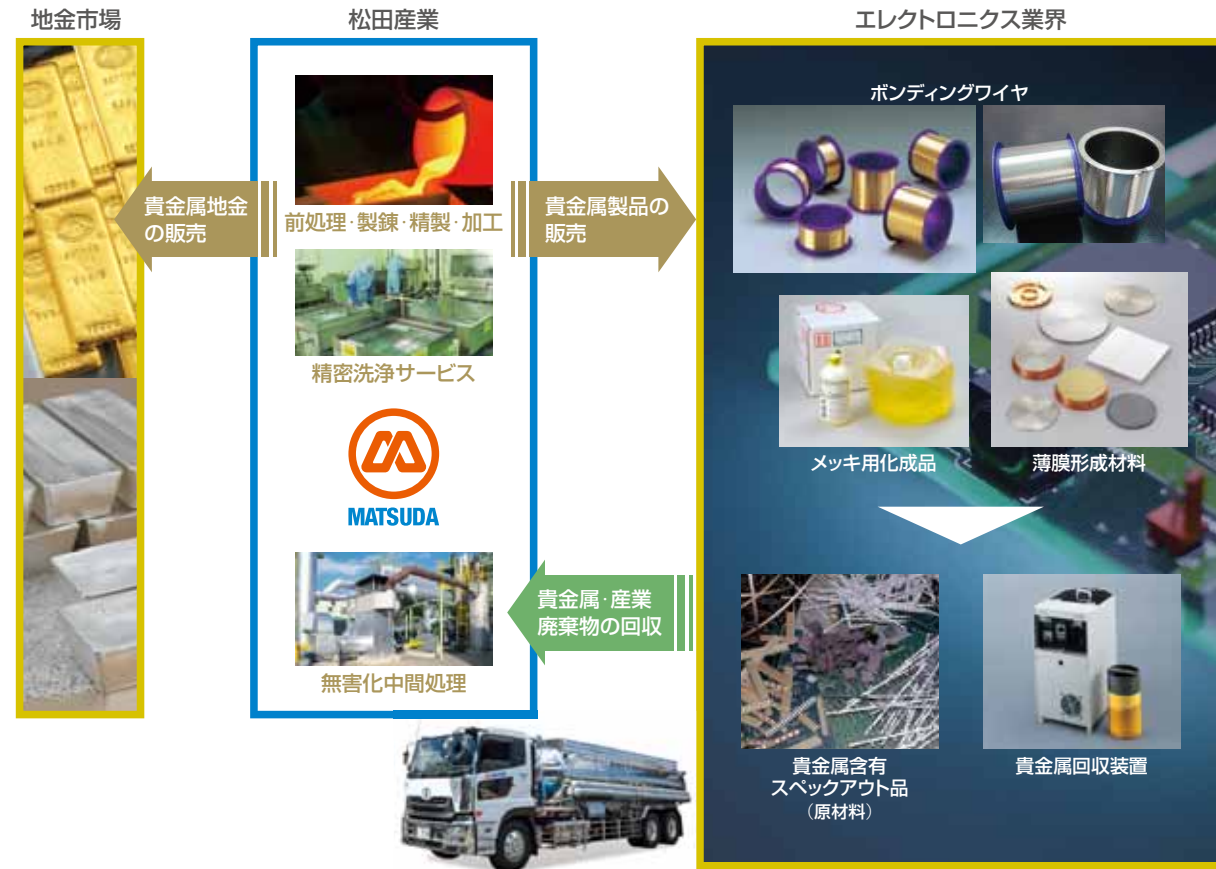
株主の皆様におかれましては、今後とも何卒一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 松田 芳明



ビジネスモデル [貴金属関連事業の仕組み]

「貴金属事業」では、半導体・電子材料部材などの貴金属製品を主にエレクトロニクス業界へ販売するとともに、貴金属を含んだスペックアウト品などを回収し、貴金属をリサイクルしています。粉碎・焼成などの前処理工程から、製錬・精製・加工等の後処理工程までを行います。「環境事業」では、産業廃棄物の収集・運搬・処理を手掛け、廃酸、廃アルカリの無害化中間処理などを行います。



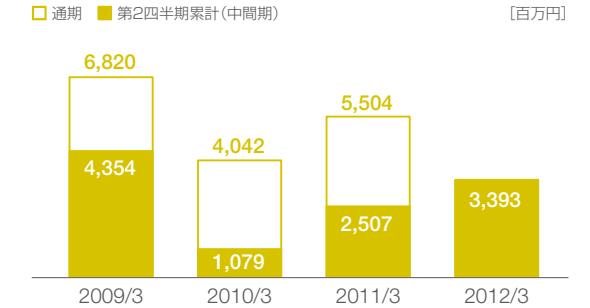
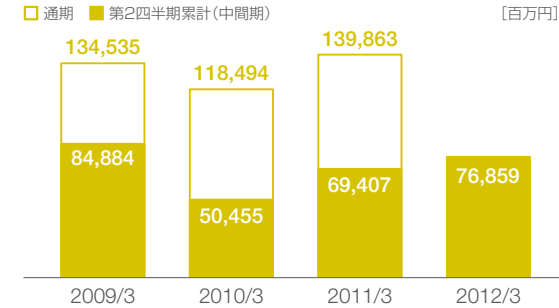
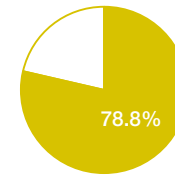
事業の概況

2012年3月期第2四半期(累計)の概況

売上高 **76,859**百万円 前年同期比 **10.7%** 増

営業利益 **3,393**百万円 前年同期比 **35.3%** 増

売上高構成比



第1四半期においては震災の影響により、東北・関東地方を中心に主力顧客である半導体・電子部品業界の生産が落ち込みました。これを受けて当社の貴金属化成品や電子材料等の販売量は減少しましたが、第2四半期に入って持ち直しの動きがみられました。一方、貴金属原材料回収は全般的に伸び悩みの傾向となりました

が、貴金属価格の上昇から地金販売は増収となり、全体としての売上高も前年同期に比べ増収となりました。環境部門では、震災により一時的に排出量が増加し、取扱量は前年同期に比べ増加しました。また、写真感材の回収から得られる銀の価格上昇もあり、売上高は前年同期に比べ増加しました。

戦略課題と重点施策

生産・処理能力の強化、新商品開発に向けて、「海外拠点の強化」「国内拠点の整備」「製品・技術の開発」を戦略課題として取り組んでいます。

戦略課題	重点施策	注力ポイント
海外拠点の強化	マレーシア工場の立上げと安定稼働 タイ工場の早期復旧	東アジア拠点網の整備
国内拠点の整備	入間地区の拠点整備	設備更新・能力増強
製品・技術の開発	回収技術力の強化／精密洗浄能力の向上／メッキ液等の新商品開発	製品販売と原料回収による相乗効果

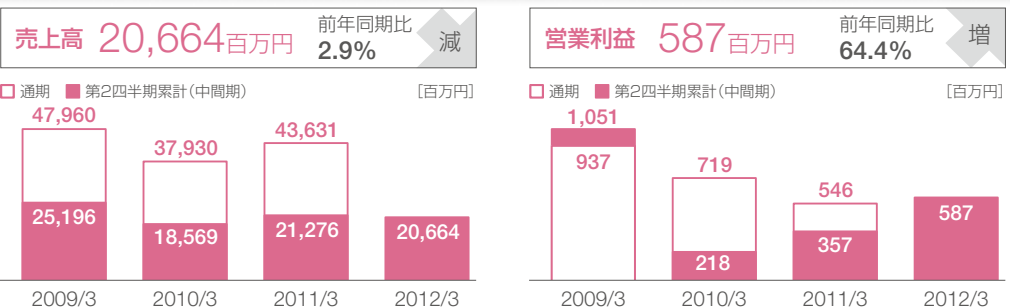
ビジネスモデル [食品関連事業の仕組み]

お客様が要望する仕様や規格に合うよう、必要に応じて現地で一次加工した食材を世界各国から仕入れ、加工食品メーカーなどに販売します。産地における生産工程や品質管理を徹底し、安心・安全な食材を提供しています。



事業の概況

2012年3月期
第2四半期(累計)の概況



消費者の低価格志向が強まる一方で、世界的な食材の値上がり傾向という厳しい事業環境が続きました。このような状況のもと、すりみなどの水産品は、震災後の一部のお客様の生産回復遅れに加え、価格の不透明感による買い控えや練り製品

市場の縮小傾向により、売上高は前年同期に比べ減少しました。一方、鶏卵や鶏肉等の畜産品は、単価アップにより売上高が増加しました。また、農産品は、外食産業向けの販売が減少しました。

戦略課題と重点施策

安心・安全な商品の安定供給に向け、さらなる品質管理の徹底、トレーサビリティの強化を図っていきます。販売拡大に向けては、業務用食品原料において、仕入先との関係強化、新規商材・新産地の開拓に取り組むとともに、惣菜売り場などをターゲットとした中食業界への販売促進を強化していきます。

特集 | 松田産業が取り扱うモノ

すりみ

「すりみ」は汎用性が高く、加工しやすいという特徴をもち、さまざまな食品に使われています。当社は、1961年から「すりみ」を取り扱っており、日本国内において業界トップクラスのシェアを誇っています。

世界中の産地から調達

当社は、北米・南米、日本、アジアの各産地の大手優良生産者から、品質の高い「すりみ」を調達しています。魚種は、スケソウを中心に、タラ系統の南ダラ、ホキ、ヘイクや、アジアで漁獲の多いイトヨリ、キントキダイ、グチ、エソ、タチ、ハモなど多岐にわたり、お客様である加工食品メーカーの使用用途に合った「すりみ」を提供し、多様なニーズに応えています。



水産練り製品の主原料「すりみ」

「すりみ」は、調味料や食塩などを加え、形を整えた後、蒸す・焼く・揚げる・茹でることにより、かまぼこ、ちくわ、さつま揚げ、はんぺんなどの水産練り製品へと姿を変えます。美味で低カロリー・高タンパクであることから、冷凍食品やソーセージ、惣菜などの食品原料としても使われています。



安心・安全な「すりみ」をお届け

当社は食材の提供だけでなく、「すりみ」を使った独自のメニュー提案を行い、フードコーディネーターとしてお客様と一緒に新商品の開発にも積極的に取り組んでいます。また当社は、1988年に品質保証室を立ち上げ、専門スタッフが海外生産拠点の工程や品質管理に対し徹底した指導を行っています。他にも異物混入検査や菌数検査といった厳格な検査を実施するなど、安心・安全な商品の提供に努めています。今後も当社は、「すりみ」商品の品質改善の向上に努めるとともに、新たな産地・商品・市場を開拓し、お客様とともに業界の発展に貢献していきます。



連結財務諸表のポイント

業績・配当の推移

連結財務諸表のポイント

[百万円]

損益計算書(要約)	当四半期累計 2011.4~2011.9	前四半期累計 2010.4~2010.9	増減	増減率
売上高	97,524	90,683	+6,841	7.5% ▲
営業利益	3,980	2,864	+1,116	39.0% ▲
経常利益	3,984	2,865	+1,119	39.0% ▲
四半期純利益	2,465	1,703	+762	44.7% ▲

貸借対照表(要約)	当四半期末 2011.9	前期末 2011.3	増減	キャッシュ・フロー計算書(要約)	当四半期累計 2011.4~2011.9	前四半期累計 2010.4~2010.9
流動資産	45,922	45,256	+666	営業活動による キャッシュ・フロー	1,423	△2,059
固定資産	15,734	15,786	△52	投資活動による キャッシュ・フロー	△367	△2,592
流動負債	17,501	18,686	△1,185	財務活動による キャッシュ・フロー	△748	2,756
固定負債	3,628	4,006	△378	現金及び現金 同等物の四半期末残高	6,921	2,174
純資産	40,527	38,349	+2,178			
総資産	61,656	61,042	+614			

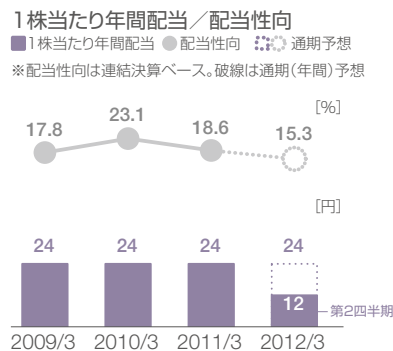
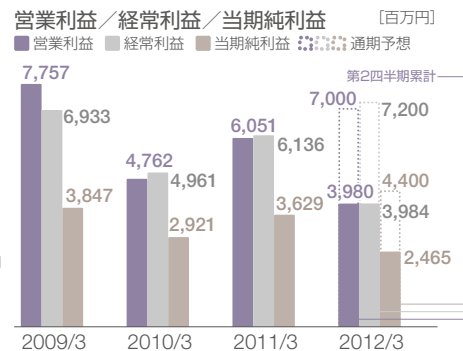
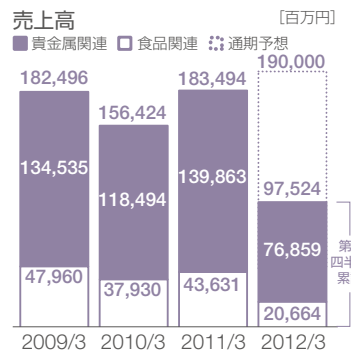
詳細な財務諸表等をご覧になりたい方は、当社ホームページ「投資情報」の決算短信をご参照ください。

松田産業

検索

▶ トップ画面 ▶ 投資情報

業績・配当の推移



もっと知りたい! 松田産業

株主・投資家の皆様から
よくいただくご質問に
お答えします。

Q 産業廃棄物とリサイクルの関係について教えてください。

A 「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(廃掃法)では、事業活動に伴って発生した廃棄物のうち法令で定められた20種の廃棄物を「産業廃棄物」と規定しています。工場から排出される貴金属を含んだ電子部品等のスクラップは、処理コスト以上に評価額が高いため、産業廃棄物には該当せず、貴金属原料として回収されます。産業廃棄物の処分は、従来は無害化して埋め立てるとい

う方法が主体でしたが、埋め立て処分場が逼迫してきたことや、資源の有効利用という意識の高まりからリサイクルへの機運が高まっています。さらに、環境ISO14001を取得し、ゼロエミッション(埋め立て廃棄物ゼロ)宣言を掲げる排出事業者が増えたことも、リサイクル化への移行に拍車を掛けています。

Q 松田産業は、どのように産業廃棄物のリサイクルに関わっていますか?

A 当社の環境事業は、主に産業廃棄物の収集・運搬、またそれらの無害化処理、再資源化リサイクルを行い、排出事業者であるお客様のゼロエミッション達成に向け、リサイクル、リユースを積極的に提案、推進し、支援しています。例えば、汚泥は溶かしてガラス状にした後、路盤材やセメントの増量原料として利用します。廃プラスチック類は埋め立てずに、焼却炉の燃料や一部はペレットにして素材として利用します。また、一部のメーカーから発生する比較的不純物の少ない廃酸などは、補助材料や原料、表面処理剤として再利用する提案を行っています。

47都道府県において収集運搬業許可を得ており、また、事業所のある主要都市では一部処分業の許可を取得しています。そのほかにも信頼できる協力会社と提携し、全国の収集運搬網を活用した独自の処理・リサイクルネットワークを構築しています。

松田産業は、このように多種多様化する廃棄物に対するお客様のさまざまなニーズに対応し、リサイクル、リユースを通じて産業廃棄物を資源として有効利用する取り組みに貢献しています。

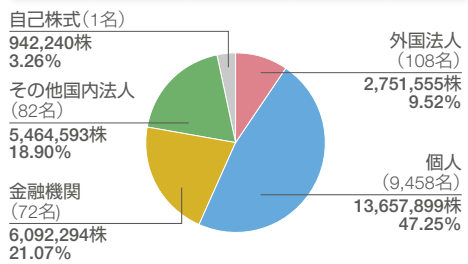


収集運搬用車両

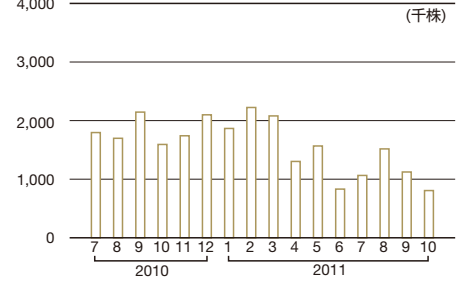
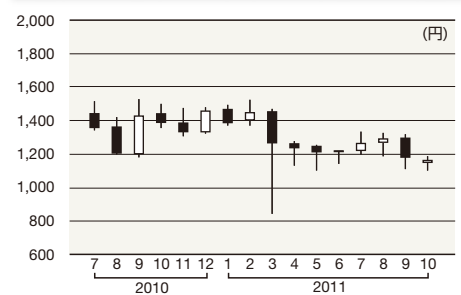
株式の状況 平成23年9月30日現在

株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	28,908,581株
株主数	9,721名

株式の分布状況 平成23年9月30日現在



株価・出来高推移



松田産業株式会社
 証券コード: 7456
 東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル
 TEL 03-5381-0001 (代表)

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意)
- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】		
	お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
特別口座に記録された株式	▶特別口座から一般口座への振替請求 ▶単元未満株式の買取(買増)請求 ▶住所・氏名等のご変更 ▶特別口座の残高照会 ▶配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
	▶郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人 [手続き書類のご請求方法] ▶音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ▶インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
証券会社等の口座に記録された株式	▶郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
	▶上記以外のお手続き、ご照会等口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。



株主優待

- 対象株主**
毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上保有の株主様を対象といたします。
- 優待の内容**
一律2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」を贈呈いたします。
- 贈呈の時期**
毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬発送を予定しております。

